

ま え が き

この研究報告書は、（財）第一住宅建設協会ならびに（財）地域社会研究所からの研究助成によって進めた調査分析の結果を、1997年3月現在でまとめたものである。

報告書の表題は「財政難を前提とした福祉バス運行システムの将来像」というタイトルになっている。これは数年前に着想したテーマをそのまま文字にしたものである。現在、福祉バスも乗合路線バスも、ともに“金（かね）”に困っている。もし両者が協同運行できるのであれば、互いに補完しあえるのではないか。こうした思いから、まずは福祉バスの将来像を考察してみたいと考えて、この課題で研究助成に申請した。

しかし、実際に研究に着手してみると、すぐに障害に直面した。最も大きな障害は、福祉バスに関して全国的なデータが見当たらないことであった。例えば、どこの福祉施設が福祉バスを保有しているのか、その一覧表さえ入手できなかった。したがって、その運行形態などに関する概括的データも整理されておらず、アンケート調査票を設計するためには運行現場を知る必要があった。

そのため、この研究では福祉バスについて第一歩から勉強することになった。初めの段階で熊本市希望荘の福祉バス「あゆみ号」について実状を取材したり、滋賀県などの典型5事例を現地視察したのは、そのためである。こうして現場を実際に見てまわる作業は、福祉バスに対する実感を蓄積する上で、またアンケート票を設計する上で役立った。

研究助成を頂戴したこの2年間の研究では、全国福祉バスアンケートの集計とその考察を中心とした。この種の調査は、国内ではおそらく初めての例であろうと推察している。それだけに、分析・考察はまだ初歩的なレベルを脱しえておらず、福祉バスについてその全体像をやっと理解できた段階にあると、筆者ら自身が位置づけている。

ただし、2年間の模索を終えて、研究をさらに展開させうる見通しは付いたと感じている。今後も引き続いて、このテーマで基礎研究を進めていきたい。

1997年3月

代表研究者 渡辺千賀恵（九州東海大学工学部・教授）

共同研究者 田中聖人（九州東海大学工学部・助教授）